

地域に根ざしたコミュニティにおける持続要素に関する研究

－運営側として携わる人の視点から－

1455078 鈴木梨紗 指導教員 藤掛洋子

【背景・目的】家庭や自治会・町内会といった従来、地域の見守りや情報交換の場となっていたものが、上手く機能しなくなってしまった現代、住みやすい地域づくりや課題解決に市民（地域住民）が主体となって、参加する必要性がいられている。

こうした背景から、市民（地域住民）主体となり、地域の課題解決、発展を目的として、地域の人々が自立・自活できるよう目指す、コミュニティ・ビジネスに注目が集まっている。本研究では地域に寄り添ったコミュニティを運営している人側に視点を当て、こうした場が利用する人だけでなく、運営している側にとっても心地よい空間であり、自己実現の場になりうることにについて考察していく。また、地域に根づくコミュニティという場の持つ魅力から、地域活動に関心が無い人にも、何らかの影響を与えている可能性についても明らかにしていく。

【方法】商店会・まちづくりフォーラム・株式会社 A の 3 つの組織で運営しているタウンカフェと現在は休業中であるオーガニックレストランを訪問し、タウンカフェおよびオーガニックレストランの運営代表者各 1 名、有償スタッフとボランティアスタッフの各 1 名の計 4 名に聞き取り調査を実施した。コミュニティ施策やコミュニティ・ビジネス、コミュニティ・カフ

ェに関する文献調査（含む政府や独立行政法人によるアンケート結果）も行った。

【結果・考察】様々な課題がある中で、コミュニティの運営を持続させていくには、キーパーソンや地域に課題意識をもつ一人に対して共感する人だけでなく、そういった地域の活動などに関心の無い人も巻き込んでいくことが必要であり、本研究で調査した 2 つの場でも多様な人が運営に携わっていることがわかった。あらゆる人がコミュニティ運営に携わるきっかけが多くあるほど、そのコミュニティは地域に根づき、持続・発展していくことが可能になる。

また地域に根づくコミュニティは、利用する人だけでなく、運営に携わる人にとっても自分らしくいることができる場となっており、運営に携わることによって、居心地良いというだけでなく、自分らしくいられる場であったり、学びや成長の場であったり、特別な存在へとなっているということが調査より明らかとなった。

【結論】地域に根づくコミュニティというのは、運営する人にも利用する人にも、押しつけでなく、心地よい空間であり、そうした場は自然と人々を惹きつける。このような場がそれぞれの人の居場所となるとともに、地域においても大きな役割を果たす存在へとなっていくことが望ましい。